

## 上内手遺跡 第11地点

遺跡名	上内手遺跡
よみがな	かみうちでいせき
調査地点	第11地点
主な時代	弥生時代後期～古墳時代前期（約1800年～1600年前）、平安時代（約1150年前）
調査地	富士見市大字上南畑14番3、17番1、18番2
調査面積	852 m <sup>2</sup>
調査期間	令和元年6月13日～7月31日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡12軒 平安時代の竪穴住居跡2軒、井戸跡1基、火葬墓1基</p> <p>【出土した主な遺物】 弥生時代後期～古墳時代前期甕、平安時代の須恵器坏</p> <p>【概要】 上内手遺跡は、市内を縦断して流れる新河岸川によって形成された自然堤防上に位置しています。当遺跡は弥生時代後期～古墳時代前期の遺構が多数検出される遺跡で、今回の調査で見つかった竪穴住居跡を含めると30軒以上の竪穴住居跡が確認されています。今回の調査で確認された弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴住居跡12軒のほかに、平安時代の竪穴住居跡2軒が確認されました。本地点の南側に広がり、かつ当遺跡の南端部に位置する第10地点では平安時代の遺構は検出されなかったことから、平安時代の集落は第11地点を南限とした遺跡中央部から北部にかけて営まれていたものと想定されます。</p>



弥生時代末頃の竪穴住居跡完掘状況



古墳時代前期の竪穴住居跡から出土した壺類



竪穴住居跡が2軒重複しています



平安時代の竪穴住居跡完掘状況